

国語科（現代文B）学習指導案

岡山県立岡山一宮高等学校 普通科 2年6組

令和2年11月14日（土） 第5校時 2-6HR教室 指導者 西中麗奈

<p>題 材 (単元)</p>	<p>『こころ』夏目漱石 (三省堂『高等学校現代文B改訂版』)</p>	
<p>目 標</p>	<p>○本文の語句や表現に即して登場人物の心情を捉えようとしている。(論理的思考力) ○登場人物の心情を深く読み取るために、読解が必要な箇所を指摘できる。(情報分析活用力) ○登場人物の行動を分析し、理想的な未来に至るためにはどう行動すべきだったか提案できる。 (垣根を越える力)</p>	
<p>指導上 の立場</p>	<p>○生徒の実態…本クラスは普通科の理系クラス（男子21名・女子13名）である。学習に対する意欲が高く、授業内容をよく聞いて着実に読解力をつけてきている。しかし、与えられた課題をこなすことに精一杯になっており、その時間で学んだ内容がその時間のみで完結してしまうため、他の教材や他の教科・科目、実生活とつなげて考えることが出来にくい。現代文という授業で学ぶ中で得た知識をより普遍的なものとして捉え、積極的に様々なところで活用できる力を養いたい。</p> <p>○単元観…『こころ』は高校国語の定番といえる教材である。生徒たちは小説教材として一学期に『山月記』を学習している。高校二年生の今、『こころ』という作品を読むことにどのような意味があるのか問い続けながら学習を進めていく。『山月記』と同様に『こころ』も生徒たちが普段使わないような言葉遣いが多く用いられており、一見理解が難しいように思える。そうした文章だからこそ、本文を根拠に論理的に読解することで、より深く正確な読解につながることを指導したい。i コンピテンシー（本校における生徒に育てたい5つの資質能力）の中でも、本単元では【情報分析活用力】【論理的思考力】【垣根を越える力】の3つを身につけることを目標としている。</p> <p>○本単元で工夫する点や手立て…①生徒自らに本時の問を予測させる。心情をより深く理解するためのヒントを提示し、それをふまえて授業で取り扱いそうな箇所に線を引かせ、なぜそこだと予測したのか根拠を明確に説明出来るようにしている。これまでに学習したことを活かしつつ、新たな学びを自ら発見できるようにしている。【情報分析活用力】【論理的思考力】②毎時間振り返りと共に『本日のしあわせ分岐点』を考える時間を設けている。あえて先に全て本文を読ませ、そのうえで本文を精読することで登場人物の行動をより冷静に分析する。分析した行動から、登場人物の行動を改めて考え、どこでどう行動していたら「しあわせ」になれたのかを、読者の視点で提案させる。【垣根を越える力】</p>	
<p>指導と 評価の 計 画 全11時間</p>	<p style="text-align: center;">主な学習活動</p> <p>第一次（上）の部分読み ……1時間 ○『こころ』（上）の数場面を読み、（下）で明かされるであろう「先生」の秘密を書き出す。</p> <p>第二次（下）の精読 ……8時間 ○心情読解のために注目すべき表現を自分でみつけ、本時の問の予想をする。 ○比喩表現に注目しながら心情を説明する。 ○「覚悟」という一語に着目し、使われている意味合いの違いを説明する。 ○登場人物それぞれの視点の違いを分析し、知っていることと知らないことを整理する。</p> <p>第三次 本文全体を通して ……2時間 ○本文全体を通して、伏線を見つける。 ○「しあわせ」を再考する。（本時）</p>	<p style="text-align: center;">具体的な評価規準（◇）と評価方法</p> <p>◇評価規準（観点）〈評価方法〉</p> <p>○本文の語句や表現に即して登場人物の心情を捉えようとしている。(論理的思考力) ○登場人物の心情を深く読み取るために、読解が必要な箇所を指摘できる。(情報分析活用力) ○登場人物の行動を分析し、理想的な未来に至るためにはどう行動すべきだったか提案できる。(垣根を越える力)</p>

本 時 案 (第三次の第2時)			
目 標	<p>○本文の語句や表現に即して登場人物の心情を捉えようとしている。(論理的思考力)</p> <p>○登場人物の心情を深く読み取るために既習事項を適切に用いることが出来る。(情報分析活用力)</p> <p>○登場人物の行動を分析し、「しあわせ」な生き方を普遍的に考え、語り合うことができる。(垣根を越える力)</p>		
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法など	
1、めあてを確認する。	小説を読んで「しあわせ」な生き方について考え、語り合う。		
2、本時のパートあらすじ確認	本時で取り扱う箇所が教科書に載っていない箇所であることを確認したのち、各自で2分間、本文プリントを読んであらすじをまとめさせる。	<p>・これまでのノートを確認している。【情報分析活用力】</p> <p>(「なんにも知らない」とは何を知らないのか。)</p> <p>・本文を根拠に説明出来る。</p> <p>【論理的思考力】</p>	
3、本時のQ1を考えながら本文の読解を深める。	<p>Q1 「純白に保存しておいてやりたい」とはどういうことか、説明せよ。」</p> <p>【個人】A1に記述させる。(3分)</p> <p>【ペア】答えを確認する。</p> <p>A 「妻になんにも知らせないでいること。」</p> <p>【全体】追加発問①</p> <p>「何を知らせないのか？」</p> <p>A 「私が卑怯者であること」</p> <p>「私が『黒い影』にとりつかれていること」</p> <p>追加発問②</p> <p>「『黒い影』とは何か？」</p> <p>A × K ○罪悪感(私が卑怯者であることへの)</p> <p>※必要であればA1に言葉を書き加えさせる。</p> <p>追加発問③</p> <p>「妻の記憶は純白なままで保存されていたか？」</p> <p>A Yes</p> <p>根拠：①で奥さんが薄赤い顔をしているから。</p> <p>Q2 「妻(お嬢さん)にとってのしあわせは、『純白』なままであることと『純白』ではなくなることでどちらだと考えられるか。」</p> <p>※「おまえは女だから戦わなくていいと言われるか、一緒に最後まで戦ってくれと言われるか」と呟くことで一年次に学習した『平家物語 木曾の最期』の巴御前を思い出させる。</p> <p>※誰かと「共に生きる」ことで得られる「しあわせ」について言及させたい。</p> <p>【個人】A2に記述する。(3分)</p> <p>【全体①】机上にプリントを置き、他の生徒の答えを見て回る。</p> <p>【全体②】生徒を数人指名し、自分の中で印象に残った生徒の答えを紹介させる。</p>		
4、登場人物のしあわせについて考える。			
5、本時の振り返り	<p>小説と一緒に読んできたことでどのようなことを考えたか、振り返らせる。</p> <p>※「小説を『みんなで』読むことにどんな意味があるんだろう」と呟き、語り合うことの必要性に言及させたい。</p>		<p>・これまでに学習した教材を元に自分の意見が書けている。【垣根を越える力】</p>